

「福井新元気宣言」推進に関する施策

「福井新元気宣言」に掲げられた「元気な社会」、「元気な産業」、「元気な県土」、「元気な県政」の4つのビジョンを着実に実現していくため、県民の理解と参加を得ながら、責任を持って職務を遂行し、特に、今年度は、次に掲げる施策・事業について重点的に実施します。

平成19年7月

福井県教育委員会教育長 広部 正紘

「新元気宣言」を推進するための19年度の基本方針

- ・ 県内外の有識者で構成する「教育・文化ふくい創造会議」を設置し、本県の教育・文化について新たな振興方策を検討し、本県独自の施策を「教育・文化創造プロジェクト」として速やかに実行します。
- ・ 学校・家庭・地域が一体となって、一人ひとりの子どもたちに目を行き届かせ、基礎・基本を確実に習得させる「ていねいな教育」、一人ひとりの資質と能力を最大限に伸ばす「きたえる教育」、文化・スポーツの振興の3つを柱に、豊かな人間性を持った魅力ある人づくりのための施策を全力で実行します。
- ・ 「県立音楽堂子ども鑑賞シート」や「県立音楽堂ちびっ子コンサート」、「ふれあいミュージアム」、「まちかどふれあいハーモニー」など、子どもたちや県民が本県の文化、第一級の芸術・文化をいつでも身近に体験できる機会を充実します。
- ・ 本県の子どもたちが、福井の歴史や福井の偉人、白川文字学などを楽しく学ぶ拠点として、旧県立図書館を改修して「福井子ども歴史文化館（仮称）」の整備を進めます。

- ・ 県民の読書の楽しみや学習活動を支援するとともに、身近な課題の解決や調査研究の支援など地域や県民に役立つ県立図書館となるよう、サービスを一層充実します。
- ・ 県立恐竜博物館の学術研究・展示・PR活動などを強化し、福井が誇る恐竜研究の成果を本県ブランドとして全国に向けて発信します。
- ・ 全国に先駆けて配置した栄養教諭が中心となって、学校における食育の一層の推進を図ります。また、おいしく食べて、楽しく学べる学校給食をさらに推進します。
- ・ 「スポーツふくい基金」を創設し、指導者の育成やジュニア段階からの選手強化等を応援し、県民が楽しめる生涯スポーツの振興と世界に通じる競技力の向上を目指します。

19年度の施策

1 未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化

教育力の向上と文化の創造

- ・ 県内外の有識者で構成する「教育・文化ふくい創造会議」において、本県の教育・文化の新たな振興方策についてテーマ毎に2、3か月程度で検討し、本県独自の施策を「教育・文化創造プロジェクト」として速やかに実行します。

19年度の検討テーマ	教員の指導力向上策 理科・数学教育の充実 第2次元福井っ子笑顔プラン（仮称） 増えている学校事務を改善する「学校マネジメント改革」 ふくい文化の振興
------------	--

「ていねいな教育」と「きたえる教育」

- 子どもたちの持てる可能性を最大限に伸ばすことができるよう、「元気福井っ子笑顔プラン」に基づき、引き続き学級編制基準の適正化等を図ります。また、学校生活を支援するボランティア制度の一層の普及や非常勤講師の配置を進めます。

小学校	1、2年	非常勤講師の配置、ボランティア制度の普及
"	3～5年	チーム・ティーチングや少人数指導の強化
"	6年	少人数学級編制 36人
中学校	1年	" 30人
"	2、3年	" 36人

- 全国学力・学習状況調査の結果を詳細に分析し、本県の課題に対応した指導方法を導入して、児童・生徒の基礎的な学力、自ら意欲的に学習する力を伸ばします。

- 小・中学校の教員を対象に、民間教育機関への派遣や民間教育機関講師による研修会を行い、教員の指導力を高め、児童・生徒の基礎的な学力、自ら意欲的に学習する力を伸ばします。

民間教育機関教員派遣者数	30人
全体研修会受講者数	1,700人

- モデル小学校を指定し、外国人講師等を活用した英語活動を充実させます。また、中学校においては、授業中に英語を使用する時間を増やし、児童・生徒の英語に対する興味・関心、英会話力を高めます。

さらに、小・中学校において、長期休業期間等に子どもたちがALT（外国語指導助手:Assistant Language Teacher）と触れ合う機会を増やし、「英語が楽しい」と答える児童・生徒を増やします。

小学校英語大好きモデル事業	モデル校13校（20年度まで）
授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合（中学校3年生）	42.0%

- 小学校の理科授業において、教員OBや大学生、民間企業の技術者などを観察・実験を補助する「理科支援員」や、より発展的な内容を分かりやすく教える「特別講師」として配置し、理科が好きになる児童の割合と理解度を高めます。

「理科支援員」または「特別講師」の派遣	50校
---------------------	-----

- ・ 学校図書館において、PTAや地域のボランティアスタッフを充実したり、公共図書館等との連携を強化するなど、児童・生徒が楽しく読書活動を行うことができる環境をつくります。

学校図書館におけるボランティアの活用	小学校	73.5%
	中学校	17.0%

- ・ 最も多感な時期の生徒を抱える中学校に「心の専門家」であるスクールカウンセラーを配置し、いじめ等の問題行動に的確に対処します。こうした施策により、不登校の未然防止や早期発見、解決を図ります。

スクールカウンセラー配置校	県内の全公立中学校に拡大
---------------	--------------

- ・ 中学生から望ましい職業観・勤労観を形成できるよう、中学校における職場体験学習の一層の充実を図ります。

各中学校の職場体験実施日数	3日以上
---------------	------

- ・ 市町と連携し、県内の全ての小・中学校に家庭・地域・学校の代表で構成する「地域・学校協議会」を設置し、三者が一体となって学校づくりを行います。こうした施策により、地域全体の教育の在り方や子育ての方針について一元的に話し合う機会を提供します。

「福井型コミュニティ・スクール」の設置 （「地域・学校協議会」）	15～18年度	133校
	19年度	108校

- ・ 高校に教科指導や進路指導の中核となる教員を配置します。また、学習合宿や大学訪問など各校独自の学力向上策を支援します。

さらに、全日制の全ての1年生を対象として、基礎学力診断テストを実施し、生徒一人ひとりの理解度に応じた指導を強化します。

高等学校への教員配置（教科指導・進路指導）	24人
-----------------------	-----

- ・ 高校教員を大手予備校に派遣し、教科指導力を高め、生徒の学力向上を図ります。

大手予備校教員派遣者数	18人
-------------	-----

- ・ 高校生の段階で望ましい職業観・就労意識を向上させるための総合的な施策を実施し、離職率の低下を図ります。

- ・ 職業系高校においては、教育内容や生徒のニーズを踏まえた進路指導を充実させます。また、国家資格等の取得を目指した指導を強化し、将来の適切な進路選択を支援します。

国家資格等取得者数	延べ2,700人
-----------	----------

- ・ 職業系高校や大学、企業関係者による推進会議および課題解決プロジェクトチームを設置し、実践的なものづくり人材を育成するための教育プログラムを作成します。

- ・ 特別支援学校教諭免許状取得のための免許法認定講習および特別支援教育コーディネーター養成研修を実施し、発達障害児の教育に従事する教員の専門性の向上を図ります。

特別支援教育コーディネーター研修受講者数	150人
----------------------	------

- ・ 特別支援学校（高等部）と福祉・労働関係機関との連携を強化し、生徒の社会自立や職業自立意識を高め、一般企業への就職を促進します。

- ・ 子どもたちにとって分かりやすい授業を展開し、優れた実績をあげている教員（「授業名人（仮称）」）が、他の教員に授業を公開し、教員の指導力の向上を図ります。

授業名人による公開授業	年間15回以上
-------------	---------

- ・ 給食改善プランを策定し、給食環境の改善や調理技術の向上を図り、「おいしい学校給食」を実現します。

また、栄養教諭が中心となり、家庭や地域と連携して、季節の旬の地元食材の導入やオリジナルメニューの開発、食に関する相談業務を拡充し、先進的な食育活動を展開します。

学校給食が好きな子どもの割合	70.0%
朝食欠食率	1.3%

いつでも身近に福井の文化

- ・ 旧県立図書館に「福井子ども歴史文化館（仮称）」を開設するため、課題解決プロジェクトチームにおいて施設のコンセプトや施設概要等に関する基本計画を9月までに作成します。
- ・ 小学校において児童が漢字を楽しく学べるよう、「白川文字学」を取り入れた新しい漢字の学習方法や学習教材を研究開発し、小学校における漢字学習の充実を図ります。
- ・ 県立図書館において、図書館の持つ機能や資料を使ったレファレンス（調査相談）の充実や、インターネットの活用、遠隔地利用者の利便性の向上に努め、より多くの県民が図書館サービスを利用できるようにします。

レファレンス（調査相談）件数	21,000件
インターネット予約件数	32,000件
遠隔地利用者図書返却サービス利用冊数	12,000冊

- ・ 県立図書館へのフレンドリーバス（無料送迎バス）について、新たなバス停の設置や運行経路の見直し等を行い、児童・生徒をはじめ、より多くの県民が利用しやすい環境を整備します。
- ・ 子どもたちが第一級の芸術・文化を直接体験できるよう、県立音楽堂や各学校等での音楽や絵画等の鑑賞機会を拡充し、気軽に芸術・文化に親しみ、楽しめる機会を提供します。

第一級の芸術・文化を直接体験する子どもの数 （子ども鑑賞シート、ちびっ子コンサート、ふれあいミュージアム等の参加児童・生徒数）	50,000人
--	---------

- ・ 文化財の指定・登録、再発掘等を進め、文化財の保存・活用活動を支援し、ふるさとの宝である文化財の価値を高めます。こうした施策により、県民のふるさとの誇りを醸成します。
また、県内の重要な文化財については、国の指定が受けられるよう文化庁に対して積極的に働きかけます。
- ・ 県内の特色ある様々な祭りを、県民一人ひとりが認識し、ふるさとの誇りを一層高めることができるよう、「ふくいふるさと祭り」を開催します。

「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援

- ・ 生涯スポーツの応援と世界に通じる競技力の向上を目指した「スポーツふくい基金」を創設するため、課題解決プロジェクトチームにおいて基本コンセプトを取りまとめます。

- ・ 児童・生徒が、運動の楽しさや喜びを味わい、走・投・跳の基礎的な技能や体力を身に付けられるよう、小学校における総合運動部の設立を推進します。

総合運動部の設立	3校
----------	----

- ・ 県民スポーツ祭における冬場の種目の増加や、総合型地域スポーツクラブの交流促進など、年間を通じて県民の誰もが運動・スポーツ、レクリエーション活動を生活に取り入れる「健民スポーツ運動」を推進します。

県民スポーツ祭参加者数	27,000人
総合型地域スポーツクラブ総数	13クラブ

2 女性活躍社会

日本一の子育て応援システム

- ・ 子どもの安全・安心で健やかな活動場所を確保するため、地域の実情に応じて放課後の居場所を確保する「放課後子どもクラブ」を実施します。また、「放課後子どもクラブ」の円滑な運営を行うことができるよう市町に対し運営委員会の設置を働きかけます。

運営委員会を設置する市町の数	15市町
----------------	------

3 日本一の安全・安心（治安回復から治安向上へ）

「福井治安向上プラン」の実行

- ・ 防犯教室をはじめとする安全教育の徹底を図ります。また、市町および地域が行う学校設備の整備や登下校時の子どもの安全確保活動を支援します。

災害・危機への「最初動」対策

- ・ 学校施設は、児童・生徒の学習の場であり、地域住民の応急避難場所としての役割をも果たすことから、県内の小・中学校の耐震化を促進し、災害時の安全・安心を確保します。

耐震診断（改築・統廃合計画を除く）	100%
補強工事	17棟

4 地域を支え世界に広がる福井の産業

「エネルギー研究開発拠点化計画」のステージ・アップ

- ・ 工業高校等において、新たに原子力・エネルギーに関する指導者の育成および専門的な教育を実施し、原子力分野等における優秀な人材を育成します。

5 夢と誇りのふるさとづくり

「理想県」福井を全国に

- ・ 「国際恐竜シンポジウム（仮称）」の開催や第3次発掘調査の実施、海外における恐竜発掘調査・研究を行い、恐竜博物館の研究レベルの向上を図ります。
- ・ キッズホームページの開設等により博物館の広報力を強化します。また、民間企業とのコラボレーションによるプロジェクトの実施、恐竜関連グッズの開発や県産品を活用した商品販売等のブランド化の促進等を通じ、入館者数の増加を目指します。
- ・ 恐竜博物館から恐竜発掘現場までの地域を中心とした九頭竜川流域一体を「恐竜渓谷（ダイノソーパーレー）」として捉え、部局連携により、新たな観光誘客の拠点づくりを目指します。

恐竜博物館の入館者数	30万人
------------	------

「ふくい帰住」政策

- ・ P T A や地域に対し、家庭等にある図書の寄贈を呼びかけるなど、学校図書の実質充実を図ります。

- 総合的な学習の時間、学校行事、各教科等の時間を活用し、郷土の歴史や偉人、文化、産業、自然など、郷土に関する学習を実施して、郷土に愛着を持つ児童・生徒を増やします。

〔 平均学習時間	小学校 4 4 時間	〕
	中学校 3 2 時間	

「ふくいランドスケープ構想」

- 福井固有の歴史景観の核となる県指定文化財の保存・活用活動を関係市町とともに支援し、美しい福井の歴史景観の形成を推進します。

〔 県指定有形文化財（建造物）の保存修理	3 件	〕

4年間の目標数値

今後4年間の施策を通じて次の目標の実現を目指します。

	指標名	18年度の現状	22年度末までの目標
教育力の向上と文化の創造	学力の向上	-	「教育・文化ふくい創造会議」を踏まえ設定
	学級編制基準の見直し	-	「教育・文化ふくい創造会議」を踏まえ設定
「ていねいな教育」と「きたえる教育」	「福井型コミュニティ・スクール」の実施校数(小中学校)()	133校	291全小中学校
	英語授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合(中学校3年生)	39.5%	50%以上
	県立高校生の就職3年後の離職率	42.2%	40%未満
	地場産学校給食の実施校数()	244校	すべての学校給食実施校(301校)
	学校給食が好きな子どもの割合	63.4%	80%
いつでも身近に福井の文化	県立音楽堂等で第一級の芸術・文化を直接体験する子ども(小・中・高校生)の数	4万6千人/年	5万人/年
	県立図書館の図書貸出冊数	86万冊/年	90万冊/年
「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援	総合型地域スポーツクラブを拡大	10クラブ	17クラブ
「理想県」福井を全国に	県立恐竜博物館の入館者数	29万人/年	40万人/年

「福井子ども歴史文化館(仮称)」入館者数について、全体計画を検討して目標値を設定します。

()は、「新元気宣言」に記載のある目標数値